



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第3号

2011年

1月発行



撮影：北平 将くん(小5) 将君の紹介は裏表紙をご覧ください。

アヨロ湿原から樽前山を撮りました。噴火口からの煙が5つの丸い形になっているのですが近くを通ったおじさんが「珍しい現象なんだよ」と教えてくれました。(将君談)

新年のあいさつ・子どもとメディアアンケートへのご協力をお願い

子どもとメディア北海道インストラクター活動報告
入会ありがとうございます。会員29名になりました
会員の方からのメッセージ

2ページ～

4ページ～

6ページ

7ページ

新年のご挨拶

代表 諏訪清隆

会員の皆様におかれましては益々、ご健勝のことと存じ上げます。

昨年、「子どもとメディア北海道」を立ち上げて初めての新年を迎えました。

発足から半年が過ぎますが、勉強会、講演会、新聞の取材などを通して徐々に活動が広がっています。これも会員の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

(Yahoo や Google でも「子どもとメディア北海道」で検索できるようになりました (笑)。)

さて、今年の夏には活動2年目を迎えます。

これからも啓蒙活動を通して子どもへのメディア対策の輪を広げていきますが、2年目を迎えるにあたって新たな活動を始めます。

子どもとメディアアンケートへのご協力のお願い

ご存知のようにソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) や携帯無料ゲームに関わるトラブルの増加、3Dゲームの発売など、子ども達をとりまくメディア環境は日々変化し続けています。

しかし残念なことに、利便性や快楽性、商業性が優先されるために、それらのリスクへの対応策への認識、啓蒙が追いつけていないのが現状です。

今後、さらなる子ども達のメディア漬けの深刻化が懸念されます。

有効なメディア対策を実践していくためには、まず子ども達がおかれている現状を把握する必要があります。

このたび、「子どもとメディア北海道」では北海道における子ども達のメディア接触の現状を把握するために園児～高校生を対象とした独自のアンケート調査を進めることに致しました。

客観的なデータを集めることで、子ども達の実態が見えてきますし、他県でのデータと比較することで北海道における特徴を見つけることにつながるかもしれません。

以下にアンケート調査の概要をお示しします。

目 標

2011年度に得られたデータを検討し基礎データとします。対象は、幼児、小学生低学年、高学年、中学生、高校生ごとに1000人程度のアンケートを目指しています。

アンケートの改良点があれば内容を修正します。

この基礎データを元に各市町村教育委員会へのアンケートへの協力をはたらきかけて、さらに多くのデータ収集を目指します。

北海道は広大であり、その地域によってメディア接触も異なる可能性が考えられるので、道内の多くの地域でのアンケートを目指します。

アンケートの目的

- ① 子ども達のメディア接触の現状を把握する。
- ② 子ども達の生活リズムの現状を把握する。
- ③ 新入生については入園、入学前と後の変化を比較する。
- ④ 得られたデータは、子ども達の生活リズムとメディア接触の関係を検討するための資料とする
- ⑤ 今後に対策方法を検討し、提唱、実践していく。
- ⑥ アンケートに協力いただいた、各施設にデータをフィードバックすることで、園児、生徒のおかれている現状を理解していただくきっかけとする。

アンケートの内容 内容は学年によって変更致します。

- ① 子どもたちの家族背景について：両親の年代、家族構成など
- ② 子ども達の各メディアへの接触の状況について：平日、休日別
- ③ 子ども達の生活リズムについて（起床、就寝、朝ごはん摂取の状況など）
- ④ 保護者がケータイ・ネット・ゲーム等で、感じていること、困っていること、相談したいことを自由に記載していただく

アンケートの実施時期

2011年4月～5月ころ。

新入生については10月ころに2回目を実施。

私たちが暮らしている地域の子どもの状況を知らなければ有効なメディアへの対策活動はできません。また、活動を通して何がどう改善されたのかという客観的に判断する材料がなければ本当の効果を評価することはできません。子どもとメディアに関する、より充実した活動を行うためには実態調査が必要だと考えます。

今のところ、複数の保育園、幼稚園、幼児センターにおきまして、アンケートの趣旨をご理解をいただき、快くご協力いただける予定です。いずれの施設も子ども達の発達支援に熱心でメディアの影響を心配されています。

つきましては、会員の皆様でアンケートにご協力いただける保育園、幼稚園、学校などがございましたら、ご紹介いただけますようお願い申し上げます。

関心のある方(園や学校関係者)がいらっしゃいましたら事務局までお問い合わせ下さい。

メディアのリスクから子ども達を守るために皆様からご協力いただけますようお願い申し上げます。

インストラクター活動報告・中谷10月～12月

★10月～12月まで、子育てや子育て支援の講演会の機会を十数回いただきました。

その中で、「子どもとメディア」の養成講座で学んだ内容も盛り込んだところ多くの反響がありました。

★1番驚いたのが、「子どもにとって、電子映像メディアが発達を阻害するリスクがある」ということを初めて聞いた方が多かったことです。私の子育て中、仲間や子育て通信の読者さんなどは、「できればテレビやビデオ、ゲームは触れさせたくない」と考えている人が多かったです。でも、「1日中子どもといると、何時間かテレビやビデオを見せてしまって良くないよなあ」と悩んでいる人や「幼稚園の年長や小学校に入ったら本当に周りの子がみんなゲームで遊ぶので、我が家流を貫けない」と試行錯誤している人がほとんどだったのです。

★なので、敢えてメディアのリスクを強調することは、母親を悩ませてしまうので、「気をつけていればいいのでは？」とか「我が家で買わないでいられる期間をごまかしながら伸ばそう！」と話していました。

★ところが、その考えはごく少数派(ガラパゴス?)で、テレビのつけっぱなしやDVDは繰り返しかけっぱなし、幼児期にゲーム操作が上手なことはプラスの評価(すごーい!おにいちちゃんよりうまい!)である方が、一般的なことを実感しました。また道内各地の方が、思春期から成人の発達の仕方がメディア接触時間の2極化といえる現象で大きく違っていること、社会人としてコミュニケーション能力が心配であることを日々の暮らし(学校や職場)の話として語っていました。

★一方で、講演を聞いて下さった方が、「聞けて良かった」「それぞれの発達段階でどんなリスクがあるのか具体的にわかったので納得した」「自分の子育て孫育てはもちろん、地域で取り組みたいものだ」などと予想以上に前向きに共感してくれたことにも驚きました。

★私自身勉強不足で、次々に変容しながら登場する電子映像メディアの何が子どもの発達にどうマイナスに働くのか具体的にお示しできないことが多いです。力不足がもどかしいのですが、子育てや教育の支援者の方が、万人既知の事実と思っているリスクについてでさえ、一般的には情報として不足しているのです。

★みなさん、一緒にどんどん伝えていきましょう!『焼け石に水』・・・とってしまうこともあります、「聞いたことがないからわからなかった」「言われてみれば、思い当たることがある」方が多いのです。

★11月13日の白老町と12月10日の美唄市での講演会(演題はいずれも『子どもとメディアのよい関係～大人のできること、すべきこと～』)で、主催者が参加者の方からとったアンケートを紹介します。みなさんの仕事や活動で啓発していく時の参考にして下さい。

白老町

・メディアの功罪を分かりやすい言葉で話していただいた。上手にコントロールすべくがんばってみたい。思春期の孫の育成に役立たせたい。

・興味深いデータやお話を聞いて良かった。親や周りの大人の責任を強く感じた。もっと親に聞いてほしい。ケータイについては町で共通のルールを作ってほしい。(学校への持ち込みなど)

・内容が広すぎてもう少しテーマを絞った方がもっと理解しやすかったのでは。

・良い講演でした。幼児期の大切さ。たくさんの中学生や保護者に聞かせたかった。

・孫世代の私にとっても大変興味深く、勉強になりました。「ノーメディア運動」に育成の会で取り組めないか・・・。茨城・東海村で長年実施しています。(1回/週)

・初めて聞きました。講演内容は良かったのですが、少し欲張り過ぎかな。乳幼児期の話が少し多かったようです。青少

年育成大会なのだから、思春期以降の話でもOKだったかも。

- ・子どもとゲームについて、大変良かったと思う。私も脳の働きについて研究したことがあり、共感があった。白老町の児童のゲーム表も参考になった。限られた1日の時間をどう活用するかを、大人として子供にどう伝え育てるかが大切であることが理解できた。
- ・小中学生の親の集まり(PTAなど)での再講演をお願いすべき。大変参考になった。孫の時代だけれど、よく考えながらよく見て指導するよう話し合おうと考える。

反響

- ★講演を聞いてくれた子ども発達支援センターの先生、小学校の低学年・高学年の保護者の方から、「少人数の集まりですが、話をして下さい」と依頼をいただきました。(2月に3回)
- ★9月の高齢者大学で、孫育てに役立てたいので話してほしいという依頼をいただきました。
- ★主催者の町民の会として継続して啓発していきたいということで、1月28日に、ケータイ・ネットのリスクについて早くから啓発されている『札幌大通高校教諭 大和剛彦さんの講演会』を実施することになりました。

美唄市

講演会で関心をもったところ・印象に残った話は？

- ・ゲーム、ケータイを持つのは易しいが、やめるのは大変。
- ・ノーメディアを参考にしたいと思いました。
- ・親子でしっかり話し合う大切さについて。
- ・ゲームについて。すごくいつも悩んでいることだったので参考になり、ありがたかったです。
- ・ゲームの話についてよくわかった。(小5)
- ・ゲームは体力の低下につながるからひかえた方がいいと思った。(小5)
- ・「ケータイ」の話。娘(小5)が持ちたがっており、大変参考になった。
- ・こんな時代になってしまっちゃんと考えてゆかねばならないと感じた。
- ・依存によってその時期、大切な時間が奪われる。
- ・子どもを産み育てる立場になった時、ますますメディアは身近になっていると思われ、ケータイを持たせるか否かとなった時、よく話し合いルールを決めていくことが子どもを守ることに繋がると改めて思いました。
- ・「10歳までは、子どもの心」というところ
- ・子どもとメディアのあり方がよくわかった。
- ・子育てに電子メディアがこんなに悪い影響があるということを初めて知りました。よい勉強になりました。自分自身も気をつけたいと思います。テレビつけっぱなしなど。
- ・電子メディア以外の遊びや実際の体験活動の大切さを実感した。

☆10月23日に子育て支援の内容で話した際、主催の保健福祉部こども未来課の方が、「クリスマス・お正月前にメディアの話もぜひ！」と12月に企画されました。年度途中なのに取り組まれたフレキシブルさに感激しました。

ゲームやネット、ケータイについてのルールは？ 悩みや心配なことは？

- ・ゲームもテレビもルールを決めている。ケータイについては考えさせられた。
- ・話し合い、本人も承諾するが守られないことが多い。息子がPCに依存気味になっていて心配。PCができないと、ゲーム・マンガ本に夢中になることがあるので親として心配。
- ・ある。「やめろと言ったらすぐやめることをルールに。おおむね守られている。
- ・ルールはあるけどあまり守られていない。(小5)
- ・あるけど、守られないことがよくある。(小5)
- ・ゲームは1日40分以内(小5、守られています。)ポータブルゲーム、ケータイは持たせていません。パソコンはネットにつないでいません。家では会話の中でルールを決めてやっていますが、お友達の家で何の拘束もなくいろんなゲームやネットをやってきます。相手の親と合意形成するのが、とても難しいです。相談する相手がいません。
- ・ゲームを1日1時間と決めています、守れない日もあります。
- ・ゲームは1日1時間。

- この時期の子どもたちだからこそそのリスク
- ★ 十分なリスクの知識がないまま、技術的にはネットの世界に簡単に入っている。
 - ★ 利用実態が他人（大人）には分かりづらい。
 - ★ 家の中では思春期を迎え孤立化しやすい。家族の会話も少なくなってくる時期では？そのため親が干渉することを避ける傾向。

大人が把握できない問題が、子どもたちの世界に広がっている！

(朝日新聞2010年12月27日)

北海道内の学校でも
潜む学校裏サイト
予算減り監視緩む
パトロールに限界
モラル教育の徹底を

同封の新聞
記事を参照
下さい

★ネットをめぐるトラブルを知ろう

*メールに関する日常的なトラブルは茶飯事。(思春期の心性にメールの特性が同調しやすいため)
*平成21年度北海道教育委員会が民間委託したネットパトロールで検出された不適切な書き込みは

33,094件。そのうち小学校44件、中学校7,900件、高等学校25,131件、特別支援学校19件。

分類別では、氏名顔写真などの個人や他者を特定・推測できる情報を提供したものが30,143件

飲酒・喫煙の告白など不法行為が1,536件、特定個人に対する中傷や悪評・他者への暴力行為に

関わるものが966件、自殺願望や自傷行為、家出などに関わるものが172件、不適切な行為277件。

★右にある3枚のスライドは、『子どもとメディア北海道』で、講演の時に使用しているパワーポイントの一部です。

★「ネットをめぐるトラブルを知ろう」のスライドは、北海道教育委員会の担当者の方に教えてもらい作成していました。(昨年10月)

★この情報を講演会で紹介することで、「北海道でも大人の知らない問題が子ども達の世界に広がっている」ことを知ってもらえました。

★『子どもとメディア北海道』では、ネットの世界に入る前のリスクやモラル教育をすることを1番の目標にしています。しかし、ネットパトロールもトラブルの大きな抑止力になると考えます。

★12月27日の朝日新聞にあるように、予算が減り専門のネット監視会社への委託回数が減ったことによりその抑止力が弱まっていることが残念です。

★その代替え措置として、教員や保護者を対象に、今夏、不適切な書き込みを見つけるための講習会を実施したとありますが、子どもとの毎日の日常の中で、何よりも信頼関係を築くことが最重要課題である教師や親が、その任を担うことの弊害が危惧されます。

(文責：中谷)

★ネットをめぐる事件を知ろう

- ①出会い系サイトで知り合った男性から大麻を買い学校内で逮捕された
→今年8月旭川市立中3年女子
- ②家出サイトで知り合った中2女子に売春させ逮捕
- ③小学生になりすまし裸の写真の送信を強要
→今年8月室蘭市小6女児の事件
- ④中学生らが暴行の様子を動画サイトに投稿

「子どもとメディア北海道」入会ありがとうございます。会員29名になりました！！

★前回の情報誌発行時より、9名の入会があり、会員が29名となりました。

★12月8日には苫小牧で、会員のお一人、恵庭市にお住まいの『えにわ子ども新聞』を発行されている佐山さつきさんにお会いしました。佐山さんは、新聞で『子どもとメディア北海道』の設立を知り、入会して下さった方です。

★佐山さんは、11月20日に札幌で開催された「インターネット安全教室 in 北海道」(主催：経済産業省・NPO日本ネットワークセキュリティ協会)に参加され、その時配布された資料を「参考にして下さい」と寄付してくれました。

★初めてお会いしたのにもかかわらず、おしゃべりが弾み、「子どもとメディア北海道」でも実際に集まって、意見交換したり学び合ったりできたらいいですね・・・と盛り上がりました。

会員のみなさまのメッセージです

我が家の子ども達は、まだ携帯電話の年齢ではないのですが、テレビ&ゲーム(Wii)は大好きです。学校が休みの日の前日だけは午後9時までゲームOK。平日は基本的にゲームは無し。

テレビは9時までですが、夕方から夜にかけてピアノの練習や少年団活動があるのでそれほど見る時間はありません。

我が家は、日曜日だけは朝からアニメ祭り。小3・小1・5才の子どもたちなので、それぞれが好きなアニメを見ると、朝6時から10時までびーっちりアニメ三昧です。その4時間の中で、興味あるのは見て、興味ない時間帯はピアノのレッスンを交代でやって・・・とかなので、ひとりが見ている時間は2時間くらいかなあ

そんな感じで、スポーツ活動やピアノなどのお陰で、時間的にはそれほどメディア漬けにはなっていませんが、

でも、怖いのがTVを見ているときの子どもたちのTVへの集中力といいますか、引き付けられっぷりです。人の話、いっさい聞かないですから！っていうか、聞こえてないですから…。きっと、TV付けっぱなしにして何も規制がなければ、ずーっとなんて見ても飽きないのではないのでしょうか。

TVもゲームも家の約束があって何とか歯止めとなっている部分大きいと思います。中谷さんも携帯について「約束事」を決めることが重要と書かれていますが、親子関係、生活のリズムにもびーっちりじゃなくても、コレだけは守ってという約束事って大事ですよ。つくづく思います。

31歳で、1歳半の息子がいます。

「子どもとメディア」というよりは、自分のことになってしまうのですが、携帯のメールがとても便利な半面、とてもわずらわしく感じられることがたまにあります。

気をつけようと思いつつも、子どもと遊んでいる時もメールがなると遊びを中断して、メールを見たり(時には、返信したらり)子供が寝た後の貴重な自分の時間も、メールの返事の内容を考えるだけで終わってしまったら・・・。もう少し、自分が携帯とうまく付き合っていけるようになっていきたいです。

「子どもとメディア」と言えば、まっ先にゲームが思い出されるでしょうか。我が家は女の子ばかりということもあり、ゲームボーイすら買わずに済ませ、DSもPSPも、私は触ったことがありません。

パソコンでのゲームもやったことがなく、三女は携帯をまだ持っていないし・・・、といった状況です。

私自身もゲームが大の苦手興味も持てないのでした。それでも不便は感じないようで、子ども会の会合などで腹ばいになってDSに耽る友人たちをただ眺めていました。今はそんな暇もありません。

TVに関しては、現在は特に必要がなければ消してあります。PCから音楽を再生して聞くことが多いので。

産科という育児の始まりの場所で子ども達とお母さん達が目を合わせて生活が出来る環境を作っているような活動が出来たらと考えています。母親になるためには妊娠期からの関わりが非常に大切であると思います。

助産師は、女性の一生に関わっていくべき職業であり、私たちの関わり方によっても、今後の育児や生活に与える影響は大きいものと考えています。

自分の責任を考えながら働くとともに、自分の生活の中にある「メディア」について考えていけたらと思います。

私たちの関わるテーマに「性」があります。子ども達に、「NO SEX」を教えるのではなく、理由や目的を考えてもらうという必要があると思います。

メディアも同様の観点であると考えます。してはならない・使ってはならないということ教えるのではなく、どうしたものなのかを知ってもらう必要があると思います。

微力ではありますが、職場でも共有し活動の輪を広げて行けたらと思います。

小学生と0歳の母親です。

上の子が周りの友達が持っているからと、テレビゲームを欲しがりはじめました。

本当にこのまま与えてしまっているのかと悩んでいる時「子どもとメディア北海道」を知り、冊子などを見せていただき、親として大人としてメディアに対して責任を持たなくてはいけない事を実感しました。

小さい子ではテレビ、大きくなるにしたがい、ゲームやパソコン、携帯など、これから色々興味を持ち、手にすることになった時、お互いに理解した上で使用できるように、勉強させてもらいたいと思っています。

また、勉強した上で、ぜひ仕事でも伝えていけるように役立てたいと思っています。これからも、いろいろと教えて下さい。

どうぞよろしくお願い致します。

子どもとメディア北海道

会員大募集！！

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>

会員になると 会議などはありません。ゆるやかなネットワークです。

- ★ 情報誌が届きます（年間4回発行予定）。
- ★ 学習会や交流会にご参加いただけます。

申込方法 入会申し込み用紙にご記入ください

☆同封の入会申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXで事務局まで送信ください。
代表・事務局へのメールでも受け付けます。（申込用紙の必要事項をメールに書いて返信ください）また、会費を郵便小為替で郵送される方は、封書で一緒にご送付ください。
☆入会申し込み用紙の送信と以下の会費の納入の確認をもって、情報誌の発送をさせていただきます。その年度にすでに発行されている情報誌は全て送ります。

会費について 情報誌作成発行・事務費等に当てます

★年会費 2000円

★会費の納入方法は、代表・事務局への手渡し、事務局まで郵便小為替（2000円分）を郵送するかのいずれかをお願いいたします。

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)申込・問い合わせはこちらまで

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp

☆北平将君は、小学1年生から『しょう新聞』という手書きの新聞を発行しています。

☆家族の楽しいエピソードから、地域の情報、事件や事故まで、将君の視点で綴られています。

小5の現在、なんと175号まで発行していて、読者は140人にも上ります。

☆最近、建物や道路地図・鉄道路線図などに磨きがかかり、見入ってしまうことがしばしばです。親御さんが、ただ黙って見守っているのがいいのでしょうかねえ。

☆まさに、電子映像メディアとは違う血の通ったメディア発信者の一人なのです！油絵や写真など興味が広がってきた将君が、将来はネットなども有効に使いこなしてどんな発信者になるのか、本当に楽しみです。
(しょう新聞ファンのおばさんより)